

西大和つうしん

2018年3月号
No.429



三峰山～平倉峰の尾根道から倶留尊山方面を望む <2018年2月18日>

奈良県勤労者山岳連盟

西大和山の会

西大和つうしん

第429号(2018年3月号)

【目次】

3月度山行計画	1
4月度山行計画	2
3・4月度カレンダー	3
山行・行事等参加メモ	4
山行報告	
・例会山行 《1/28》 播磨の山 伊勢山(高橋)	5
・登山学校 《2/3》 両白山地 大日ヶ岳(永井・藤本)	6
・例会山行 《2/4》 比良山系 蛇谷ヶ峰(亀高)	8
・教育山行 《2/17》 台高山脈 三峰山ゆりわれコース(上田)	9
・教育山行 《2/18》 台高山脈 三峰山~平倉峰(川田)	10
・自主山行 《2/18》 比良山系 堂満岳(島崎)	12
室内例会だより(1/31)	13
運営委員会議事録(2/10)	14

3 月 度 山 行 計 画

～今井さんを偲んでの追悼山行です～

例会山行1 (追悼山行) 大峰の山 《観音峰》

【日 程】 3月11日(日) (L島崎)

【集 合】 上牧役場前駐車場 7:00 発

【コース】 観音峰駐車場～(1h30)～八代権現神社～(30)～観音峰(昼食 30)～(40)～三塚～(1h)～八代権現神社～(1h10)～観音峰駐車場

※歩行時間：約5時間

～京都・近江の人々に親しまれた霊峰へ～

例会山行2 京都東山山系 《比叡山》 848.3m

【日 程】 3月18日(日) (L勝尾)

【集 合】 JR王寺駅 7:00 (7:07 発の奈良行きに乗車)

【交 通】 JR王寺(7:07 発)→奈良(7:22 着/7:29 発)→東福寺(8:13 着/8:21 発)→出町柳(8:37 着/8:45 発)→修学院(8:52 着)

【コース】 修学院～(30)～雲母坂登山口～(1h40)～ケーブル比叡山～(40)～大比叡～(30)～延暦寺～(1h)～日吉大社～(20)～比叡山坂本駅

※歩行時間：約4時間40分

4 月 度 山 行 計 画

～壱阪山駅から日本一の山城へ～

～春を呼ぶ桜を愛でながらゆっくり歩きたいと思います～

例会山行1 宇陀の山 《高取山》 584m

【日 程】 4月1日(日) (L橋本)

【集 合】 近鉄壱阪山駅 9時10分

【コース】 壱阪山～上子島砂防公園～宗泉寺～高取城址～五百羅漢～壱阪寺～壱阪山駅

※歩行時間：約3時間30分

西大和山の会 カレンダー

3月		4月		
1	木	1	日	例会山行1《高取山》(橋本)
2	金	2	月	
3	土	3	火	
4	日	4	水	県連・総会
5	月	5	木	
6	火	6	金	
7	水	7	土	
8	木	8	日	
9	金	9	月	
10	土	10	火	
11	日	11	水	例会山行1《観音峰》(島崎)
12	月	12	木	
13	火	13	金	
14	水	14	土	
15	木	15	日	
16	金	16	月	
17	土	17	火	西大和つうしん原稿締切
18	日	18	水	例会山行2《比叡山》(勝尾)
19	月	19	木	西大和つうしん原稿締切
20	火	20	金	
21	水	21	土	
22	木	22	日	例会山行2《金勝アルプス》(船江)
23	金	23	月	
24	土	24	火	
25	日	25	水	総会/室内例会/懇親会 4月度室内例会
26	月	26	木	
27	火	27	金	
28	水	28	土	
29	木	29	日	
30	金	30	月	
31	土			

山行・行事等参加メモ

No	氏名 (入会順)	2/28	3/11 例会 1	3/18 例会 2	4/1 例会 1				
		室内 例会	観音峰	比叡山	高取山				
1	(窪田)								
2	都築								
3	藤井								
4	(石田)								
5	田中悦								
6	島崎		LO						
7	田中初								
8	村田								
9	林								
10	辻								
11	勝尾			LO					
12	藤本								
13	杉村								
14	高橋								
15	玉越								
16	阪口								
17	橋本								
18	今井								
19	亀高								
20	船江								
21	野路								
22	中								
23	杉森								
24	上田								
25	永井								
26	川田								
27	高岡								
	合計								
	緊急 連絡先								

L:リーダー、○:参加、◎:車

※室内例会時点での参加予定であり、その後変更されることがあります。

山行報告

例会山行2

播磨の山 伊勢山 353m

【日 程】1月28日(日) 曇り時々雪

【参加者】L 田中初・SL 林・藤井・田中悦・勝尾・高橋・亀高・野路・中(9名)

【コースタイム】ヤマザクラ広場登山口(9:05)～展望台(9:50/10:00)～神座の窟(10:55/11:10)～伊勢山(昼食 11:25/50)～奥山(13:00)～峠(13:25)～ヤマザクラ広場登山口(13:45/14:20)

低山だが急登り急下り岩場ありの歩き応えのある山でした。

朝の天気予報ではお昼頃から雨との予報だったので、ヤマザクラ広場でのストレッチも早々に切り上げ出発した。霜柱を踏みながら所々薄っすらと雪の残る、よく整備された緩やかな道を10分程登ると、登山道を整備されていたボランティア風の3人と挨拶を交わした。

やがて急勾配の木の階段が多くなり息を切らしながら登り、展望台に到着した。展望台からは、晴天であれば淡路島小豆島などが見えるとのこと。本日は生憎の天気で見えなかったが眼下には姫路市内やドイツのノイシュバンシュタイン城に似た建物などが展望出来た。展望台から暫くは緩やかな下りが続くが、やがてロープを頼りに急登激下りを繰返し、高度感はないがスッパリと切れ落ちた危険な岩場を何度か登り下りすると、やがて巨岩の神座の窟(シンザノイワヤ)に到着した。岩壁の下に天井の高い大きな空間があり、狭い岩の間をすり抜け窟に入ると空木城跡(ウトロギジョウシ)方面などが展望出来た。

神座の窟に到着した頃から雪が降り出し積雪の恐れもあったので空木城跡へ行くのは止めて伊勢山に向かった。

伊勢山頂上は、展望は無く寒かったので昼食を早々に切り上げ、所々に激下り箇所がある東尾根コースを奥山・峠方面に向けて出発した。峠からは落葉に隠れた沢沿いのザレ場を注意深く歩き、出発点のヤマザクラ広場に無事下山した。

下山後にリーダーさんが用意して下さった美味しいゼンザイを御馳走になり温まって帰路についた。

(記:高橋稔)



県連初級登山学校修了山行（テーマ：雪山登山）

両白山地 大日ヶ岳

【日 程】 2月3日（土）・曇り一時晴れ

【参加者】 <県連教育部>CL 藤本（西大和）・杉川（奈良労山）・中武（奈良労山）
<受講生>船江・中・L 杉森・永井 // 奈良 HC 4名（計 11名）

【コ-スタイム】 高鷲スノーパーク Gondola 乗り場(9:52)～Gondola 山頂駅(10:01/18)～
《この間歩行練習》～大日ヶ岳山頂(11:56/12:21)～《この間ラッセル訓練》
～下山道尾根分岐 P1273(16:01/17)～登山口(17:35)～宿舎(17:50)

高鷲スノーパークではたくさんのスキー客(スノーボードのほうが多い)がおり、ザックとピッケルを身に着けた我々は少し違和感を感じる。しかも、周りは年齢層も若く、いつもの登山とは雰囲気が違う。しかし、今日は初級登山学校の最後の実技山行である。気合を入れなおし、ゴンドラを降り山上駅に立つ。そこには深く積もった雪と風に乱舞する雪が待っていた。

8人の受講生を2班に分け、スキー場との境目のネットをくぐり登り始める。雪が深いためアイゼンは使わない。教育部スタッフは間をおいてついてくる。トレースがあるが、それを頼りにせずルートファインディングしながら登るよう指示される。



グループでのラッセルの仕方を学ぶ。先頭は一步一步探りながら雪を踏みしめ、後続の人が、その踏み跡に靴で更に雪を被せ踏み固めていく。先頭は疲れるので順次交代する。先頭は歩くのに集中し、ルートファインディングは後続者が担う。

ようやく大日ヶ岳の頂上（1,709m）に着くが、先に登っていた班の姿が見えない。頂上は遮るものがなく、風がきつく体温がどんどん失われる。しばらく待っていると、先行班（下のほうで風を避け待機していた）のLがやってきたが、集団行動の基本を諭される。

頂上からは下るのみの行程になる。降り始めて間もなくトレースが消えラッセルとなる。先頭を交代しながら新雪を歩く。何も無いところに自分たちが道を作っていく。実に気持ちがいい。途中から晴れ間が見え、遠くスキー場や白山を見渡すことができ、絶好の雪山登山になる。

一ぷく平を過ぎ、P1,273の分岐点では、降り口を見つけるのに手間取ったが、目指す尾根が見えていたので、何とか外すことなく進むことができた。とにかく雪が深い。腰まで埋もれることも何度かあった。特に大きな木の幹の周りには要注意である。

下りが中心の雪山山行であったが、前半の風景や気候は本格的な雪山が味わえた。山頂の石柱も少ししか頭が見えず、見過ごしそうなほど雪が深い。後半は、晴れてきて快調な下りでのラッセル訓練ができた。

ロッジでは、女性陣が疲れているにもかかわらず、腕を振るって鍋料理を作って

くれ、充実した一日が終わった。講師の方々には、約一年間、いつも丁寧に時には厳しく教えを頂き感謝します。初級登山学校を終了したとはいえまだまだ迷うことが多く、経験を重ねスキルを高め、安全かつ楽しめる登山を率先してリードできることを目指したい。
(記：永井章夫)

2010年より県連教育部長の中武氏を講師として開講された「ハイキングリーダー学校（初級登山学校）」は、今年度はかつてのスタッフであった杉川と藤本が引き継いだ。様々な事情もあってひとまず幕を閉じる。西大和からは8年間で16名が派遣された。この数は県連所属団体の中では群を抜いて一位であり、本会はその恩恵を特別多く受けたことになる。とはいえ、私が初めて受講した2011年



ごろは、まだ講師も受講生も手探りのような状態だった、それから2年後、私が再受講生となったころ、ようやくこの「学校」の理念が明確になってきたように思う。

「学校」なので、知識や技術を学ぶという側面はもちろんあるが、私にとってそれはどうでもよかった(知識や技術などはその気があれば他のどこでも学べる)。私がそこで学んだのはもっぱら「登山の哲学」であった。なによりも「自立した登山者」になること。「自立」と言えば、連れて行ってもらう山行など論外、同じ山でも、リーダーとして行くかどうかでその価値に天と地の差が出るのはもちろんだが、そういうことだけではない。そもそも登山道がある山にしか行かないこと、標識やテープがあるルート、雪山ならトレースのあるルートを進むこと自体が「自立」からはほど遠い。加えて、天候判断。昨今では、インターネットを利用すれば、山ごとに詳しい天気予報が入手できる(詳しいということは、それだけ外れる確率も高いということだ)。が、そこで分かるのは、様々な気象データを数値解析した結果だけだ。何か少し条件がずれただけで実際の天候、とりわけ微妙な山の天候は全く変わってしまう。そんな状況下では、天気図で大まかな天候の推移を把握し、現地の状態を自分の目で見て判断する能力がなければ、遭難の危険性が一気に高まる・・・いやむしろ、千載一遇のチャンスを逃しかねない。——好天に恵まれた山の美しさは、プロの撮影した観光写真を超えることはまずない。一方で、雨に煙る深山の佇まいは日によってすべて異なるし、何よりも風速20mを超える吹雪が描き出す雪面の芸術は無限のヴァリエーションで我々を魅了する。そんな中一瞬の疑似晴天の僥倖にでも出会おうものなら、もう他人の選んだ「名山」のピークを踏むことなどどうでもよくなってしま・・・

「そんな高レベルな山行など私には無理」と人は言うかもしれない。しかし、一度登山道から外れれば、そして、ひとたび天候が急変すれば、大峰や台高の山でも、アルプス岩稜帯の何倍もの危険を——そして奇跡を——はらむことになる。登山はリスクを伴うスポーツである。いや、リスクの克服を楽しむスポーツだ。登山における「自立」とは、この自身のリスクマネジメント能力を磨くことに他ならない。「自立した登山者」となるべく、日々努力を重ねることで、同時に、一生に何度もない、自然との真剣な対峙の瞬間を夢見ようではないか！
(記：藤本武司)

例会山行 1

比良山系 蛇谷ヶ峰 901.5m

【日 程】2月4日(日) 晴れ

【参加者】L 藤井・SL 島崎・勝尾・高橋・亀高・野路・上田・川田(8名)

【コース】畑バス停(9:40)～林道防獣柵(10:30/47)～折返し地点(12:15/45 昼食)～
林道防獣柵(13:30)～畑バス停(13:52)

JR 近江高島駅から我々だけを乗せたコミュニティバスを終点の畑バス停で降りると、雲ひとつない快晴であった。蛇谷を目指して出発し、集落の道を抜けて雪道を進む。里道も畑も雪に埋もれ、踏み跡もなく、登山道に至る道を間違えて悪路に入り込んだため、林道の防獣柵に到達するまでに思わぬ時間を費やしてしまった。

林道から登山道に入り、登山開始。畑集落からの蛇谷への登山道は、冬季はマイナーなコースと見られ、全く踏み跡がない。積もった新雪が、時間が経って表面だけ固くなっている。アイゼンは不要で、短距離ならサクサクと靴の感触も気持ちいいが、登山靴が一步一步沈み込み、足を垂直に持ち上げなければならず、長距離となると歩きにくい。また、時折雪の下の岩の隙間などで、ズボッと膝まで沈み込んで足を取られる。雪上歩行の悪戦苦闘と晴天・無風で暑いぐらい。相変わらず歩きにくい雪道が続き、正午になってもボボフダ峠に到達しないため、昼食後本日これにて撤退することに。天気が良いのに残念だったが、写真撮影後、下山開始した。

下山路は、登山時の踏み跡がついていたこともあるが、登りはあれほど歩きにくかった道が、サクサクと心地よく、短時間で下山できた。登山時には折返し点まで

1.5時間かかったが、下山は半分の45分だった。バス停から防獣柵までも、往路は道迷いロスもあって50分に対し、復路は約20分だった。16時過ぎのバス時刻までどう時間潰しをしようかと思っていたが、13時54分のバスにジャスト・オン・タイムで間に合った。もう少し頑張れば、蛇谷を超えて朽木まで到達できたかもしれないが、新人Kさんも初の雪上歩行を堪能したことだろう。

(記: 亀高茂)



教育講座第6回実技山行・第1班

(テーマ：総復習・雪山登山)

台高山脈 三峰山 (ゆりわれ登山道)

【日 程】 2月17日(土)・曇り一時晴れ

【参加者】 L 藤本・SL 中・辻・橋本・野路・杉森・上田 (計7名)

【コース】 ゆりわれ登山口(9:28)～標高 890m 地点〔アイゼン装着〕(9:56/10:11)～標高 1210m のコブ(11:16/25)～八丁平(11:50/52)～昼食場所(11:57/12:25)～ゆりわれ登山口(13:30)



車で走ること1時間30分、松阪市飯高町から林道飯高北奥線に入る。三重県側から三峰山に入るには福本登山口、ゆりわれ登山口、月出登山口の3ルートがある。教育講座最終回となる今回の山行はゆりわれ登山口から。これまで教わった雪山登山、地図読み、自力で行動、判断ができるか試される大事な実技山行だ。

9時5分駐車場到着、身支度を済ませ早速コンパスと登山用地図を使い現在地、目的地、進路の確認をする。全員地図の整置に真剣な面持ちである。登山口9時30分出発、入口に1町札(山頂から27町と80m)が立てられている。

数歩踏み出したところでリーダーから「地図上に沢がありましたね、今渡りましたね・・・」全員足を止め再確認。「何て事だろう、地図読みでできてないじゃん！」内心苦笑。気を取り直し歩きだす。10分程上ったところで再びリーダーから「登山道が直角に曲っている箇所があります、地図とコンパスで確認しましょう」、コンパス、地図で整置する、「合ってる!なるほど!」。10時、登山道は凍っていて滑りやすいのでアイゼン装着。

今日の天気予報(16日19時時点)は全国的に北風が強く頂上は風速15mから20m、気温はマイナス5度らしい。下山時も多分解けないと思われる。所どころ立てられている一町札を見つけながらジグザグ上る。現地点はルートを外れていないか、地形図上の谷、稜線、傾斜はどうか確認する事も忘れない。木々の間から西に高見山が見える。南方に台高の山並みも見える。11時10分緩やかな八丁平稜線に出る。リョウブ、ヒメシャラ、馬酔木、ブナ、シロヤシオ等落葉樹が雪の中でじっと春を待っている。「ここで現在地を確認しましょう」とリーダーの声。解読した結果「地図上の小ピーク10メートル近くまで来ていると思います。」と回答。Lは「そのピークがあるかどうか確かめよう」。稜線から西へ代表二人がピークの確認に行く。必ず二人以上で行動する事だと教わる。しばらくしてピークを確認し戻ってくる。

11時50分、広々とした八丁平に到着。生憎霧氷、樹氷は見られない、雪は残っているが地



面が見えているところも多い。行動予定では三峰山、平倉峰の往復だったが八丁平で正午となったので引き返す事にする。

広場は強風で雪もちらつき、昼食は20分くらいで終了。12時25分来た道を下り始める。三峰山、平倉峰には到達しなかったけれど今回の目的は地図を読む事。じっくり時間をかけて指導くださったリーダーのお蔭で地図読み、コンパス使いが楽しくなってきた。忘れないうちにどこか近くの易しい山で試してみたいと思う。できれば天気図も読めるようになればいいな～。

13時35分ゆりわれ登山口到着。実技山行無事終了。山の楽しみ方がひとつ増えました。

(記：上田雅子)



教育講座第6回実技山行・第2班

(テーマ：総復習・雪山登山)

台高山脈 三峰山～平倉峰

【日 程】2月18日(日)・曇りのち晴れ

【参加者】L 藤本・SL 亀高・玉越・船江・川田(計5名)

【コースタイム】みつえ青少年旅行村第4 駐車場(8:05/25)～旅行村トイレ(8:30/35)～不動滝コース登山口〔アイゼン装着〕(9:03/20)～不動の滝(9:25)～避難小屋(10:37/48)～三峰山山頂(11:20/25)～途中昼食(11:43/12:16)～平倉峰(12:30/40)～三峰山山頂(13:09)～八丁平(13:15/20)～三畝峠(13:30)～避難小屋(13:39)～三畝山林展望台(14:18/25)～駐車場(15:00)

今回の教育講座実技山行は、本年度最後とあって「締めくくりをする」という気持ちで臨んだ。当日の朝、天気予報をみると午前中曇り午後より晴れ、風速2～3m、気温9度となっていたので、「山はさぞかし寒いだろうなあ。」と心配になった。また、私の中では「雪山登山」＝「死に値するほど危険」というイメージがあり、いつになく装備は揉捻にしたつもりであるが、次から次へと不安な気持ちが湧いてくる。毎朝飲む2杯のコーヒーも1杯に止め、家を出た。

待ち合わせ場所の王寺駅を予定どおり出発し、FN氏を自宅でピックアップして全員揃った。前日の第1班の山行に同行したF氏によると、険しい道の上に雪道で運転が大変だったこと、風が吹きあまりの寒さで急ぎ下山したことを聞かされた。車中から見る空はやはり曇空。「天気予報どおりか・・・」御杖村の集落を通り抜ける時、猟銃の乾いた音がパーン、パーンと2度聞こえた。「イノシシを追っているのだろうか」

駐車場に到着それぞれ準備をし、いざ出発。想像していたより雪がない。林道へ入るところで、アイゼンをつけた。皆は10本爪のアイゼンで私の6本爪が頼りなく思った。F氏より「アイゼンを付けたら両足幅をとって歩くこと。アイゼンの爪で互いを絡ますことのないように。足の裏全体、アイゼンでしっかり地面を掴むこと」と注意を受け、鬱蒼とした杉木立の中の白く細く続く道へ足を入れた。すぐに

不動の滝に着き、「滝は夏物」と思っていたが冬の滝は、流れ落ちる水があるがままに氷り自然の織り成す造形美を生んでいた。美しい。

初めて先頭を歩くことになったが、「早い。そんなに急がなくていいよ。自分のペースで。」と言われるものの、自分でもどれが自分のペースかわからないままひたすら登る。足の裏から伝わる地面の感触というか伝わる音が面白い。あられを踏む、金平糖を踏む、角砂糖を踏む。

足元に気を囚われまた深緑の杉木立のせいで気が付かなかったのだが杉木立を抜ける頃には、空は雲一つない晴天、青一色。天気予報のうれしい裏切り。一本一本の木の影を真っ白な雪の上に映している。空気が澄んでいるのかすべてが鮮明に映え、目が良くなった気になる。おかげで気持ちも足取りも軽くなった。



避難小屋を越えところから、さらさらの積雪の上に足を沈めながら進むようになり樹氷（霧氷？）が目の前に広がり始めた。私たちの前に行く若いカップルがそれを見て微笑み合っている。山のカレンダーの中の一コマに自分たちが入っているような、どこを撮っても美しい風景が山頂、平倉峰にあった。特に平倉峰からの景色は絶景。「川田さん、ラッキーよ。なかなかこんなベストコンディションないよ。」と教えてもらった。そう、

私はラッキーなのである。しかし、「もしも昨日のように天候に恵まれなかったら一体どうなんだろうか」と考えてみる。この山頂から八丁平あたりまで平たく広いので、進むべき道が判りにくいのではないかと、迷いそうだ。危険。

座学でF氏が「山に登る」と言うことは、「如何に危険を回避するか」ということである。」と教えていただいたことを改めて思う。危険を回避するには、計画書は無理がないように装備は万全に努め、天候、体調などに注意を払うことは最小限のことだと思う。

これまでの登山で、途中で鳥居をくぐらせられることがよくある。そこで結界を引かれることになるが鳥居の向こうがただ聖域という意味だけでなく「心して登れよ。この先は人間だけのものでないぞ。万霊の地。」と言われていたような気がする。「入らせて頂きます。」という謙虚な気持ちでこれからも山に登りたいと思う。

最後になりましたが、教育担当者 F 氏にこれまで座学を含めテント泊などの実技指導を丁寧にいただき有り難うございました。「ロウるさいと思うやろうけど」と前振りはいりませんので、これからもご指導のほどよろしく願います。（記：川田和代）



自主山行

比良山系 堂満岳 1,057m

【日 程】2月18日(日) 晴れ

【参加者】L 島崎・SL 野路・藤井・杉村(4名)

【コース】比良駅(8:58/9:15)～イン谷口(10:00)～大山口(10:40)～第一ルンゼ入口(11:15)～堂満山頂(13:50/14:10)～ノタノホリ(15:30)～比良駅(16:30)

天気予報で1,000m付近：気温-9℃、風12mであるので、中止しようかと思っ
ていましたが、17日教育山行で三峰山に行っておられ、気象条件も似ていた
ので、兎に角、無理をせず、行って見て途中で引き返すつもりで行くことに
しました。

JR比良駅に到着してみると、かなりの人が下車されており、風も殆ど無く
天気予報がうその様です。イン谷口では雪は大したことも無く、トイレ休憩
地点で労山杉川さんにバッタリ出会う。労山の教育山行らしく、10名程度、
来られていた。

大山口手前でアイゼンを付けて登りはじめる。今年初めてアイゼンを付
けて登るのだが、かなりしんどい!! アオガレ分岐でピッケルの用意をして、
ルンゼコースに入ってゆく。杉川さんのパーティーもきて、その先で労山
の別のパーティーが雪上訓練中とのこと。その訓練されている中を登って
行くが、かなりの斜度である。40～50度??はあろうかと思われる。ト
レースがついているので助かると思っただのも束の間、今後は無数にト
レースがあり困った。真ん中のトレースを行くが、木々が邪魔で足場の
確保が難しい中、みんな何とかクリアする間もなく、さらに急登である。
しばらく登るが、視界が広がらないので、私が先発隊の役目で登ってゆ
くが、なかなか先の展望が広がらない。

かなり登ったところで、トレースが分岐していた。以前登ったコースと違
ったので、稜線上に上がって判断した方がいいと思い、左側のトレースを
登る。稜線上にて待っていると、3人がやってきたので上がるよう声をか
けたが、そのまま直進してしまった。私は稜線上から堂満岳を目指す。と
ころが、小ピークを何回こえたのだろうか。新雪に足を取られながら4～
5回越えて、やっと山頂に到着。行動食を取って待っていると、杉川さん
のパーティーが登ってきたので、3人組を見なかったかと聞くと、ぜん
ぜん見ませんとのこと。やはり登ったコースが違う・・・。

しばし待ち、杉川さんのパーティーが下山するので、会ったら声をか
けてと依頼し、また、周辺をうろろ探していると登ってきた!!

本当に、ほっと一安心。幸い天気が良く、風も殆ど無く、山頂で待っ
ていても苦にならない状況だったので、良かった。3人組はゆっくりと登
ってきたらしく、そう問題なく来られたらしい。

一休みして、帰路はノタノホリコースを下山する。山頂からは急な下り
が続くが、途中からは雪の感触を楽しみながら、下山する。パウダース
ノー状態なので、気分よく下るが、ノタノホリまでがやけに長い、やっ
と到着して、比良駅に向かう、最後まで天気が良く、堪能しました。

【反省点】

- トレースの分岐で待ってから、どちらのコースに行くとしても、4人で行動すべきであった。
- カメラを忘れたので、折角の登攀コースの写真が撮れず、誠に残念!!

(記：島崎隆)

室内例会だより

【日 時】2018年1月31日(水) 19:30~20:45 事務所

【出席者】都築、藤井、田中悦、島崎、田中初、村田、林、辻、勝尾、藤本、高橋、玉越、橋本(文責)、亀高、船江、野路、中、杉森、上田、川田、高岡

1. 山行計画

- 2月4日(日) 例会山行1 比良山系《蛇谷ヶ峰》……………L 藤井
- 2月25日(日) 例会山行2 湖北の山《赤坂山》……………L 辻
- 3月11日(日) 例会山行1(今井さん追悼山行) 大峰の山《観音峰》……………L 島崎

2. 教育部主催「教育講座」第6回(最終回) / テーマ: 今年度総括と雪山登山

座 学: 2月9日(金) 講師: 藤本 19:30~事務所

実技山行: 2月17 or/and 18日 行先・日程は座学時に決定

3. 山行報告

- 12月17日 例会山行2 高野山町石道 L 辻……………6名
- 12月23日 自主山行 京都南山域《鷲峰山 686.7m》L 杉村……………4名
- 1月1日 初日の出山行 王寺明神山 L 都築……………4名
- 1月7日 例会山行1 六甲山系《東お多福山 697m》L 島崎……………13名
- 1月14日 自主山行 大峰山系《稲村ヶ岳 1,726.1m》L 野路……………6名
- 1月21日 教育講座第5回「雪山登山」実技山行
台高山脈《高見山》L 橋本……………9名

4. 連絡その他

★県連関係

- ・来年度の県連行事については、2月7日の理事会にてほぼ全ての案が示され、3月4日の県連総会にて最終決定する予定。現時点では、クリーンハイク(6月)、ハイカーのための搬出講習会(5月)、広域搜索訓練(9月)等は存続する見込み。
- ・本会より要望を出していた岩稜歩行訓練・岩登り訓練は、実行責任者(奈良 HC)以外にスタッフが出なかったため(奈良労山・JACの協力が想定されていたがいずれからでも申し出はなかった)、取りやめとなった。なお、少人数であれば、奈良労山等で開催している初級教育の岩登り訓練等への受け入れも可とのこと。

★本会より

- ・「西大和つうしん/今井さん追悼号」は、ご主人に直接手渡したいと思います。島崎さん、亀高さん、野路さんが持参する予定です。
- ・2月末で今年度の会計を締めるので、立て替え等ある方は2月24日位までに杉村さん迄メールにて連絡してください。
- ・来年度県連行事クリーンハイクを実施する場合について
本会の公開山行は一般公募しないとなっているが、一般の方の参加、他会からの参加はどうするのか。クリーンハイクについては趣旨が違うし、険しい山には行かないので、受け入れていいのではとの意見が出た。
- ・3月4日(日)県連総会出席者 代議員:橋本、オブザーバー:島崎、理事:藤本
- ・来年度運営委員、HP管理者について
副会長:林、事務局:都築、会計:野路、会報部長:亀高、教育部長:中、女性部長:藤井、山行管理者:田中悦、会報部 HP 担当:藤本 以上の方々を推薦いたします。
- ・次回運営委員会 2月10日(土) 13:30~ (新旧運営委員出席)

以上

運営委員会議事録

【日 時】2018年2月10日(土) 13:30~16:00 事務所

【出席者】島崎、勝尾、藤本、杉村、橋本(記録)、亀高(文責)

来期運営委員予定者：都築、藤井、田中(悦)、野路、中

1. 会則、山行規定等、諸規則改正案の最終再確認

会則、山行規定、車両利用に関する規定(細則 1)、山行計画及び山行報告の会報・ホームページへの掲載規定(細則 2)、緊急対策規定(細則 3)、特別基金運用規定(細則 4)について最終検討した。

・主な改定事項に関する説明

遭難対策基金を特別基金と名称を変更し、遭難対策の他、高額装備の購入及び事務所・倉庫等の賃貸費としても活用できるようにするとともに積立金を一人月額 100 円とする(細則 4)。これに伴い、会費の扱いを改定し、現在一人月額 700 円(夫婦会員 2 名:1,200 円)の一部 100 円を遭難対策基金として積立てているが、会費は 600 円(同:1,000 円)と改定する(第 10 条の 3)。

・改定案に対する意見

①山行規定(案)第 4 条に、山行計画書の提出先が会長・山行管理者となっているが、副会長と緊急連絡先も加えた方が良い。

→緊急連絡先への提出は第 7 条に記載しているが、第 4 条にも記載する。

②山行規定の第 8 条が欠番となっている。

→第 9 条を第 8 条として以下繰り上げる。

・今後の予定

会則・規定・細則案は今年度の総会にて信を問う。総会前に内容を確認してもらうため、事前に会員にメールで配信する。運営委員の方々にはそれまでに気づいた点があれば連絡いただきたい。

総会で承認された会則、山行規定及び細則はいつでも見る事ができるよう HP に UP する。

2. 来年度例会山行計画(案)の検討

- ・ 県連関係の行事・・・5 月 13 日搬出講習会、9 月 2 日広域搜索訓練、10 月交流山行は実施の予定(最終的には 3 月 4 日の県連総会にて決定される)。
- ・ 来年度山行計画(案)のテント泊西穂高岳については、参加者が多い場合は注意が必要。初心者参加の際は、岩稜歩行訓練の検討をしてほしい。
- ・ 公開山行については、新入会員獲得の見地からも、一般参加の受け入れをどうするか再検討する必要がある。

3. 各委員の業務引継ぎ内容の確認及び変更点等

・山行管理者

山行管理者(田中悦)は、会則改定により来年度より運営委員とする。なお、今後、山行当日に参加者の変更が生じた場合であっても、正確な山行実績把握のため、山行終了後に計画書を修正して山行管理者に提出すること。

- ・ 会報部：「西大和つうしん」は来年度より各自印刷することを議案書に盛り込む。

- ・教育部について

来年度の教育部長は中、スタッフを橋本、船江、野路、杉森（県連初級登山学校卒業生）とする。2年間行ってきた教育講座は、今年度をもって終了とし、来年度からは新人教育のみ行う。実山行については、必要に応じて入会2年目くらいまでの方を対象として行う。スタッフのうちの1人が負担を負うことなく部長はスタッフで1年交代としたい。

- ・総会に向けて

今年度の活動報告は、現委員が作成する。来年度の活動計画は、現委員が作成して来季の委員の確認を受ける。

次回の運営委員会（3月10日13:30～）にて総会資料の確認等を行う。

4. 団体装備品の管理について

来期からは、会長及び副会長が、所在や状態を確認し、装備品の管理を行う。

5. HP管理について

- ・HP管理者：藤本、HP編集担当者：藤本・島崎

2月25日をもって新サイトに移行する。今までのサイトは閉鎖となり、会報部HP管理者が、辻から藤本に変更となるため、2月25日から山行後の写真は藤本にも送ること（亀高にはこれまで通り）。

なお、キャプション及びHP用のコースタイム・コメントは、HP編集担当者（山行により藤本・島崎のいずれか）に送ること。

- ・山行報告のHPデザインを作成できるHP編集担当者が、藤本・島崎の2名となってしまうため、来年度予算でHP編集ソフト購入して、HP編集担当者を増やすよう努力する。

6. 県連関係の報告：来年度の県連体制

- ・来年度の理事会は従来どおり毎月の開催を望む声が多い。
- ・教育部は休止となるため「初級登山学校」は開講されない見込み。
- ・行事については搬出講習会、広域搜索訓練、女性部主催の山筋ゴーゴ体操、テーピング講習会が行われる予定。

7. 本会への提案及び課題

- ・教育部の活動は上記明記の通り新人教育のみとし、今までのような実山行は行わない。すると、会山行が、例会山行1及び2の月2回位となってしまうが、この事に関してはどうするのか、次期運営委員で考える必要はないか。
- ・新入会員のオリエンテーション的な取り組み方を考えていく必要がある。
- ・教育部の活動は、今後新人教育を中心とすることや新人へのオリエンテーションを充実させる必要があるのは分かるが、その前に新人獲得が先ではないか。公開山行も縮小の方向であるし、新人獲得に努力しているとは思えない。
- ・会員獲得が無ければ、会員が高齢化する一方で、会員獲得を今後どのようにしていくかが大きな課題ではないか。

以上

西大和つうしん

第 429 号 (2018 年 3 月号)

2018 年 2 月 28 日発行

発行責任者 島崎 隆

編集責任者 亀高 茂

奈良県勤労者山岳連盟 西大和山の会
〒636-0003 奈良県北葛城郡王寺町久度 1-9-32
窪田友男方

TEL・FAX 0745-72-2876

<http://www.nishiyamatoyama.com/>